

子どもたちが危ない！

「道徳」教科化 の問題点

「特別の教科 道徳」が、2018年に小学校、2019年からは中学校で始まりました。教科化されるとは、教科書が作られ子どもたちが評価されるということ。教科化については、北海道教育大学ほかの四つの大学が行った調査で小学校教員の約8割が違和感を覚えている、との結果が出ています。

「道徳の教科化」が子どもたちの内面にどのような影響を与えるのか、小中学生のお子さんがいる方やそれ以外の方も、一緒に考えてみませんか。（宮澤さんが実際に小学校で行っている教科書の「中断読み」についての模擬授業も体験します）

2019年11月9日(土) 午後2時～4時

場 所 浦和コミュニティセンター第13集会室 (JR浦和駅1分 コムナーレ10階)

講 師 宮澤 弘道さん

参加費 500円(テキスト代ふくむ)

宮澤弘道さん

1977年、東京都生まれ。都内公立小学校教員。

「道徳の教科化を考える会」代表。(株)現代書館「季刊 福祉労働」編集委員。東京大空襲、靖国神社、多磨全生園のガイドとして全国の教職員、市民に戦争や差別の実相を伝える活動を行う。同時に道徳の教科化を考える会を立ち上げ、学習会を主催しながらその問題点を整理中。

著書に『「特別の教科 道徳」ってなんだ？』(現代書館)、
編著に『つまり、合理的配慮ってこういうこと！？』(現代書館)他。



お問い合わせとお申し込みは

NPO 法人大人の学校 電話/FAX 048-866-9466 メール otonano-gakkou@cure.ocn.ne.jp